平成29年度第２回久御山町総合教育会議　会議録

招集年月日　　平成29年11月22日

招集の場所　　久御山町役場特別会議室

開　　　会　　平成29年11月22日　午後３時30分開会 宣告

出席委員　　信　貴　康　孝

山　本　悦　三

坂　　　正　義

　　　　　　　　寺　井　恵太郎

　　　　　　　　小　寺　道　夫

豊　田　美　幸

職務のため出席した者の職氏名

 総務部長　　内　座　元　巳

 総務課長　 森　山　公　雄

　　　 教育次長　　藤　原　幹　郎

　　　　 　　　学校教育課長　　内　座　多　恵

学校教育課主事補　　下　川　　　愛

社会教育課長　　西　野　石　一

社会教育課長補佐　　福　原　　　泉

会議の経過

１　開会

○信貴町長

・第１回目の会議では、御牧・東角校区での幼保一体化について、ご意見をいただいた。

・２箇所送迎など課題はあるが、来年４月のこども園の開設に向けて進めていきたい。

・本日の会議では、中央公民館の現状と課題を踏まえて、生涯学習の方向性についてご意見を承りたい。

○山本教育長

・教職員の働き方改革ということで、教職員の時間外の出退把握、部活動の休養日の設定などが大きな課題となっている。

・３幼稚園のこども園化、中学校給食の開始、学力の向上対策など課題が山積しているところであり、町長との総合教育会議の中で、課題解決および調整を行っていきたい。

２　議題

（１）中央公民館の目指すべき方向について

　・公民館の現状と課題

　・久御山町の目指すべき生涯学習の方向性

○福原社会教育課長補佐

・資料１に基づき、中央公民館の施設・事業概要について説明。

・中央公民館は社会教育法に基づく町内唯一の公民館である。

・年間約３万人が利用している。

○西野社会教育課長

・参考資料に基づき、中央公民館の耐震診断結果等について説明。

・現在、行革の中で中央公民館のあり方検討会を設置し、建物に関する部分について検討している。

○福原社会教育課長補佐

・久御山町の目指すべき生涯学習の方向性について、資料２、３に基づいて説明。

・社会教育とは、社会教育法に基づいて、学校の教育課程として行われる教育活動を除いて、青少年および成人に対して行われる組織的な教育活動であると定義されている。

・地方公共団体の任務としては、社会教育の奨励に必要な施設の設置及び運営、集会の開催、資料の作製、頒布、その他の方法により、すべての国民があらゆる機会、あらゆる場所を利用して、自ら実際生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならないとされており、公民館は市町村が設置すると定められている。

・公民館の設置については、平成15年に設置基準が緩和され、地域の実情に応じた弾力的な利用がなされるとともに、生涯学習施設として、年齢、性別、障害によって利用に不都合が無いよう配慮した整備という記述になっている。

・公民館の課題としては、町内文化サークルが高齢化し、刷新できていない。

・住民が主導となり、新たなサークルを創設し、能動的に活動することを目標としているが、現在は住民が町主催の教室に参加し続け、受動的な状況にある。

・リーダーやボランティアの育成及び生涯学習の普及方法についてご意見をいただきたい。

（２）意見交換

○坂委員

・久御山町の人口や規模を考慮すると、現在の公民館以上の規模の建物は必要ない。年間の事業や財政状況を考え、現在の利用状況に準じた使い方が良い。

・アクセスが不便だという意見があるが、現在の事業を引き続き行うためには、庁舎と一体化で利用でき、自転車やバスで来ることができる現在の立地で行うのが良い。他の市町村もあまり便利な場所に公民館を建てていない。

・利益を追求する施設ではないので、赤字運営はある程度は仕方ないかと思う。

○寺井委員

・庁舎と公民館、中庭があるので、公民館前にテラスを設置したらいいのではないかと思う。

・近隣でジョギングやロードバイクをされている方も多いので、人々が集う拠点になれば、公民館に立ち寄る機会にもなる。

・町の若い職員の意見を取り入れて、現代に見合った形を考えていくべきである。

・収益を上げる努力が必要である。ネーミングライツなども検討されたい。

○小寺委員

・赤字経営にならないように財政事情も踏まえてきちんと検討すべきである。

○豊田委員

・町規模で、保護者が一堂に会して、子どもの発表を見れるような機会はあまりないので、久御山町は文化的な面が充実していると感じている。

・公民館を建て替えるにしても、昭和に建てられたときと全く同じ建物を建てるのではなく、現代の工夫を取り入れて、お金をあまり使わないで運営できる造りにしてほしい。

・ゆうホールは、遊具が設置してあったり、魚が泳いでいたりするので、時間があったら行きたいと思うような工夫がされていると思う。公民館も人々が行きたいと思うような造りにしてほしい。

○山本教育長

・中央公民館は、生涯学習の拠点として文化ホールと会議室を兼ね備えた建物という形で設計し、建築された。

・高齢化やサークル数の減少が問題となっている中、自主的、主体的に活動する文化協会のような組織が結成できていない。

・リーダー格の人材を社会教育の中で育成し、住民と団体が共同で事業を行っていく環境になれば、サークルが増えていくのではないかと思う。

・生涯学習を勧めていく中で、公民館は必要な施設である。

○信貴町長

・黄金の茶室を担当していただいた東京大学生産技術研究所の川添善行准教授から、広場と公民館と庁舎は連動性があっていろいろな使い方ができるのではないかという建築家からの視点の意見を頂いている。

・昭和50年頃は、近隣の市町村には公民館がなく、久御山町周辺の方たちからも久御山町の公民館を利用していただいていた。

・人材を育成できないことが、これからの生涯学習にとって大きな課題である。

・公民館のあり方に関しては、公民館あり方検討委員会に委ねているので、その結果を踏まえて、財政も見ながら対応していきたい。

○坂委員

・生涯学習の目指す方向性について、生涯学習を深め、広めるためには、指導者を育て組織を作ることが大切である。

・久御山町にある事業所の約55％は、従業員が20人未満である。久御山町のイベントに参加したいという意見もあったので、ホームページなどを活用して町の事業などの情報を発信するべきである。

・自治会が高齢化し、運動会等への参加数が少なくなってきている。働かれている方々は60才未満なので、企業に声をかけて参加してもらうなど、イベントを通じて住民とふれ合える機会を設けたらどうか。

○寺井委員

・高齢者の方たちはサークルやいきがい大学などの生涯学習事業を大変楽しみにされている。

・サークルの高齢化が問題となっているので、若い方に参加してもらえるようにするにはどうしたらいいか、若い町職員の案を中心に考えていくのはどうか。

○小寺委員

・アンケートの結果、サークル等に参加されていない方が大半である。

・男性は好きなスポーツや趣味で参加されるが、女性は若い世代も、子育てなどの現実的なことになら参加されるのではないかと思う。

○豊田委員

・男性は本当に自分が好きなことをしたくてサークルに参加されるが、女性はサークルの活動内容はあまり重視していなくて、仲の良い人がいるからという理由で参加している方が多いと思う。古参が内輪で楽しんでいる状態になり、新しい人がサークルに入りにくく、結果として高齢化していく。サークルの方たちと触れあえる場があれば、新しい方も参加しやすくなるのではないか。

・学びたいと思うことがあっても、町内で教えてくれる人がいるかどうかを知る機会がない。例えば、手芸を教えてほしい、手芸を教えられます、といった文化的なやりとりができる掲示板があればいいと思う。

・役場の中に、個人が使わなくなった物を一時保管できる保管室を設けるのはどうか。欲しいと思う人が現われたら、名前や住所を書いてもらい、無収益であげる。貰う側も、町内の人が大切に使っていた物だとわかるほうが安心して使うことができる。他の市町村が行っており、子育てなどに役立っていると聞いたことがある。

○山本教育長

・住民の町政への関心や理解を深め、学習成果を生かし、町づくりに積極的に関わって貰うための生涯学習である。

・久御山町では、生涯学習があまり浸透していないので、選挙などの町づくりに対する関心が低い。

・社会教育事業も約30年間、同じような事業を続けている。次代の変化に則った事業展開をしていかなければならない。久御山町をどのように良くしていくか、学習した内容をどうしたら生かせるかなどの具現策を考え、スクラップアンドビルドを実施していかなければならない。

○信貴町長

・人材の育成や見出しをどのように行っていくか、今回の意見を参考に、今後の生涯学習の方向性について考えていきたい。

○閉会